

アピカホールから あなたに

ボナンタゴン

Vol.74

2014.10月-12月



平松加奈 con Armadaの皆さんとフラメンコダンサー



第128回
「おれはヴァンカール」
平松加奈 con Armada

十二月十二日開催

■寄稿 平松加奈

第17回

アピカ・アンサンブル

コンサート

十二月二十日開催

■寄稿 藤田小津枝

うかわ先生の
おんがく談義

音楽の話輪和Wa

老いてからは

追想の歌



西脇市立音楽ホール

Apika

アピカホール

「平松加奈 con Armada」

平松加奈

西脇市のみなさまこんにちは！

この度はご縁あり、素晴らしいアピカホールでの私達のコンサートが実現する運びとなり喜んでおります。フラメンコは、ロマ民族（ジプシー）の人達が、北インドのラジャスタン地方から西へと旅を続け、遠いスペインで地元の民族舞踊と結びつき、独自のスタイルを作ったとされています。

私達日本人が、フラメンコギターやジプシーヴァイオリンの旋律を聴くと、遠い国の音楽なのになんとも郷愁感を抱くのはそういった経緯で、オリエンタルな響きが宿っているからでしょう。

そして踊りはただ舞うだけでなく、超絶技巧な足音はパーカッションのよう！音楽家として、どんどん演奏に加わっていきます。

そして私達のグループはこれにジャズピアニストが加わり、華やかで色彩感覚溢れる音楽が展開してゆきます。

フラメンコギター、ヴァイオリン、ピアノ、パーカッション、そして、踊り手の足音…私達の音色が、アピカホールの素晴らしい残響とあいまって、どんな世界が広がるか、今からもうワクワクしております！

コアなフラメンコファン、ジャズファンの方も、そして初めてお聴きくださる方も十二分に楽しんでいただけるように工夫を凝らしていますので、ぜひ、たくさんの方々に私達のステージを体験していただければ幸いです。

12月、みなさまにお会いできるのを楽しみにしております。



「平松加奈 con Armada」

ジプシー・ジャズ・スタイルの演奏で活躍するヴァイオリニスト、平松加奈を中心に、フラメンコ界、ジャズ界の精鋭ミュージシャンが集まり結成した平松加奈 con Armada。

フラメンコ音楽とジャズを融合した切れのあるオリジナル曲を軸に、ルイス・ボンファの「黒いオルフェ」やヘンリー・マンシーニ「ひまわり」、さらには日本の「さくら」からジャコ・パストリアスまで、国籍もジャンルも関係なくすべてを独自のジプシー・サウンドに仕上げてしまう。

まるでシルク・ドゥ・ソレイユの舞台のようなめくるめく展開に心振るわされる音楽は、2013年1月には、スペインの大スター、フラメンコ・ダンサーのアントニオ・カナールと、オリジナル曲で共演を果たすなど、国内外から高い評価を得ている。

ただ美しいだけではない、儚さや強さ、フラメンコの死生観を内包したヴァイオリンの音色を軸に、様々な色合いを演出するフラメンコギター、ピアノ、パーカッションが絡み合い、溶け合いながら、感情のエネルギーで魂を揺さぶるフラメンコの熱を、クールで繊細な感覚で見事にまとめ上げた、まるで一本の映画を見ているような大人のジプシー・サウンドである。

平松加奈 con Armada

プロフィール

平松加奈（ヴァイオリン）

ジプシー・ジャズ・スタイルの演奏でフラメンコ音楽やラテンジャズを中心に、国内外で年間200回以上の公演をこなし、ファンを魅了するヴァイオリニスト&コンポーザー。2010年にはフラメンコ界の巨匠ディエゴ・カラスコ、故モライト・チコと共演。2014年には三谷幸喜脚本によるNHKパペット・エンターテインメント『シャーロックホームズ』の劇伴音楽を担当。数曲は、自身でフルオーケストラにアレンジしたものを、世界的指揮者、ダニエル・ハーディングとマーラーチェンバーオーケストラが演奏。ドイツでのレコーディングでは、ソロヴァイオリンで共演を果たす。

NHK『魂萌え！』『新・三銃士』の音楽を担当し話題となった、「スパニッシュ・コネクション」のメンバーでもある。

ICCOU（フラメンコギター）

日本を代表するフラメンコギタリストとして多くの優れた舞踊家から、作曲・演奏・音楽監督を委嘱され大活躍。2011年、東宝ミュージカル「ZORRO THE MUSICAL」に出演。2012年、松本幸四郎主演「ラマンチャの男」にはギタリスト兼俳優として出演。

進藤陽悟（ジャズピアノ）

チック・コリアのようなラテン・フィリングと流麗なタッチのメロディックなプレイで多くのファンを魅了し、共演ミュージシャンからも絶大な支持を得ているジャズピアニスト。自己のピアノトリオでは3枚のアルバムをリリース。

海沼正利（パーカッション）

圧倒的なパーカッションテクニックと各国の民族音楽に深く精通した高い音楽性、研ぎ澄まされた音色とセンスを合わせ持ちジャンルを超えて大活躍。海外公演も20ヶ国を越すマルチパーカッショニスト。

ゲスト：フラメンコダンサー



アントニオ・アロンソ

（舞踊家・振付家）マドリッド生まれ。7歳よりフラメンコをはじめ、13歳でグラン・アントニオのマドリッド舞踊団に入団。その後、ラファエル・デ・コルドバ舞踊団を経て、スペイン国立舞踊団に入団。代表的な作品「メディア」など プリンシパルとして世界中で活躍。'85年にはウィーンにてオペラ「カルメン」のためブラジド・ドミンゴと共演。'96年自らのプロデュースによるアメリカ・ツアーを行う。'97年来日、東京六本木にスタジオを開設。以後、数々の舞台、TV出演、CMの振付等、多方面で活躍。'06年、新宿文化センターにて自身の脚本・演出・出演による作品「ベルナルダルの家」（原作フェデリコ・ガルシア・ロルカ）を世界初演し大成功を収める。'07年よりロシアのサンクトペテルブルグを定期的に訪れ舞踊団を指導。サンクトペテルブルグ・ミュージックホールにて「カルメン・フォーエバー」の主役ホセ役を務める。ユーロアメリカ国際大学より名誉学位（スペインクラシック舞踊）を授与される。'12年、新宿のタブラオ「エル・フラメンコ」、名古屋の「ちくさホール」にて自らのバレエ団を率いて公演「VARIACIONES」を発表。2014年6月、日生劇場にてオペラ「アイナダマル」、第一部「魂の詩人ロルカ」とスペインにゲスト出演。

屋良有子

早稲田大学在学中にフラメンコに出会う。日本フラメンコ協会新人公演及びCAFフラメンココンクールで「奨励賞」受賞。2007年芸術奨学生として、2009年文化庁海外派遣員として渡西。帰国後、「屋良有子フラメンコ教室」を主宰し後進の指導にも力を入れている。



12月20日(土)

第17回「アピカ・アンサンブルコンサート」

地元の音楽団体に活動の場を提供することを目的として、平成10年に始まった「アピカ・アンサンブルコンサート」も今回で第17回目の開催を迎えます。

このコンサートは、市内の中学・高校生や一般社会人の音楽団体がアピカホールに集い、管楽器、弦楽器、打楽器によるアンサンブル演奏を行うことで、音楽団体相互の交流と演奏技術の向上を目指し、地元地域に芸術文化活動の普及を図ることを大きな目標として開催しています。

アピカホールの歴史と共に歩むこのアンサンブルコンサートから、これまで、プロの演奏家や音楽の指導者として、次代を担う数多くの人材が巣立ち、地元地域の文化力向上にも大きく寄与しております。

今回も数多くの音楽団体が、このアピカホールの舞台上で演奏します。

是非、ご来場ください。お待ちしております。



アピカ・アンサンブルコンサートに出演して

フリートランペッター 藤田小津枝

私にとって、中学時代に出演させてもらったアンサンブルコンサートは、自分のことを何も知らない人に、どう感じてもらえるのかを試す、初めての場でした。当時は、まだ緊張と言うものを知らなくて（20代は、吐きそうな程の緊張を知ることになるのですが…）気持ちよく吹いたことを良く覚えています。大学へ進み…卒業後、初めてのコンサートだったと思いますが、フレッシュコンサートでの演奏は、恩師、家族など、私を子供の時から支えてくれている人達が集まって、心温まる1日となりました。

当時は、何もわかっていませんでしたが、1つのコンサートを無事に終わらせるには、舞台上立つ人間以外に、たくさんの方が色々な事をやってくれています。例えば、チラシやチケットを作り宣伝をする、プログラムを作る、コンサートの何ヶ月も前から準備してもらい、コンサートの当日は、受付や照明など、全てお膳立てしてもらおう。今は、音楽に集中出来る環境を作ってもらえる有難さが良くわかります。

トランペットを始めて25年経ちます。トランペットを選んだのは、自分ではなく、吹奏楽部の先輩と顧問の先生が決めて下さいました。私は、木管楽器を希望していたので、最初はイヤイヤ吹いていました。芸術で大学へ進もうと何となく思っていた時、手にしていたのがトランペットだったわけですが、現在の方が、よりこの楽器の魅力に惹かれているかもしれません。

トランペットは、吹奏楽、オーケストラなどで、絶対的な役割がいくつかあります。まずは、ファンファーレです。結婚行進曲、葬送行進曲、オリンピックや競馬などの開会式、ヨーロッパの歴史をさかのぼれば戦争に勝利した時の凱旋ファンファーレなど、マイクなど電力に頼らなくても、遠くまで知らせることが出来るので、戦争にも多く利用されてきました。第二次世界大戦中、シベリアなどへ戦争に行った私の亡き祖父も、ラッパの音が時計替わりだったと言っていました。現在でも、世界中の軍隊とトランペットは深く関わり合いがあるのは事実です。他にも、キリスト教と密接な関係にあるクラシックの作品では、トランペットに与えられている役割がしっかりあります。ポップス、ジャズ、映画音楽、ミュージカル音楽、ラテン音楽、もっと他にもあると思いますが、クラシック音楽以外にもトランペットは大活躍の場があります。本当にカッコいい楽器です。

最後になりますが、音楽を愛する次世代の人には、是非、生演奏を聴く機会を大切にしてもらえたらと思います。若い世代だけ、ではないですね。老若男女問わず、皆さんに生演奏を聴いて頂きたいです。CD、YouTubeなど、私も良く利用しますが、安くて簡単に好きな曲が聴けるので本当に便利です。でも、生演奏は、違います。興味があるコンサートがあれば、足を運んでほしいです。最後まで読んで下さって、ありがとうございました。



表現力豊かな力強い演奏

——〈アンサンブル・ラロ〉と〈東京トリオ〉—— (その2)

我が国には、控え目であることが美德であるという価値観があるため、演奏家の中にも控え目な演奏をする人が数多く見られます。

しかし、このような態度は、西洋の音楽を演奏するにあたっては、残念ながらプラスとはなりません。それどころか、決定的に不利な立場に立たされてしまうことでしょう。

なぜなら、西洋の近代の音楽（とりわけ19世紀のロマン派音楽）は、きわめて自己主張が強く、各々の個性を競い合うような音楽だからです。日本人演奏家の多くに見られる資質（自己主張に乏しく、個性が希薄、押しの強さに欠ける）とまるで正反対な音楽が西洋音楽だと言えるでしょう。日本人の演奏を聴いていると、高度に磨かれたテクニックには感心させられるのですが、表面がこざいに整えられているだけで表情に乏しいことが多く、物足りなく思えることがよくあります。

ここでひとつ、音楽評論家、許光俊さんの日本人演奏家に対する痛烈な批判をご紹介します。ここで批判の対象になっているのは、国立劇場でオペラの伴奏をしている日本のオーケストラですが、ここで言われていることはそのまま日本人の演奏家全般に当てはまるように思われます。

「なにしろ、どこもかしこも金太郎郎状態の音楽なのである。いつでもこざいな響きが鳴っているだけで、感情のかけらもありません。ぞっとするような死の和音、暴力、切ない憧れ、身を引き裂くような悲しみ、絶望、血の煮えたぎるような怒りや欲望……そういう感情がまったくもって伝わってこ

ない。ちょっとおまえら、いま、ソプラノは絶望の心境を歌っているんだぜ。なのに何を気取ってきれいな音なんか出しやがってと、イライラして仕方がなかった。（中略）弾いている人間は喜怒哀楽のないロボットか。感情を露骨に顔に出さないのが日本の美德だとしても、だったら、能でもやっていたらいいじゃないか。オペラをやる以上喜怒哀楽くらいハッキリさせてもらおう。いや、そもそも歌舞伎だのプロレスだのを見れば、日本でも、感情を誇張する芸能が存在することは自明だ。なのに、オペラやクラシックをやる連中は、意味もなく気取りやがって。」（註）

このような文を載せると、日本人の演奏家は全くダメであるかのような悲観的な印象を与えかねませんが、幸い、実際にはそうではありません。もちろん、日本人が本場の人たちと同じように演奏することは不可能です。ベートーヴェンのピアノ・ソナタをドイツ人のように弾くことや、ウィнна・ワルツをオーストリア人のように指揮することは……それは、ちょうど、ドイツ人が、三味線や尺八を日本人のように演奏できないのと同じです。しかし、日本人であったとしても、作品の本質に肉薄して、聴く者に感銘を与える演奏ができる人が、少数といえど存在するのです。

一例を挙げますと、指揮者の広上淳一さん[NHK大河ドラマ「軍師官兵衛」冒頭のテーマ曲は、広上さんが指揮をしています]。

私はかつて、彼が指揮するブラームスの交響曲第1番を聴いたことがあります。ブラ

ームスの心の襞までが克明に捉えられていて、この人は日本人なのに、どうしてここまでブラームスの心情に共感できるのだろうと驚き呆れてしまいました。彼は、今、京都市交響楽団の常任指揮者をしており、京響の定期演奏会は、毎回、全て完売、定期会員（京響友の会）も飛躍的に増加した（定員が一杯になり現在は入会不可能）ということを知りますが、聴きごたえのある彼の演奏からすれば、それも当然のことと思えます。

3月28日に、アピカホールで行われた〈東京トリオ〉の演奏会も、これと同じことが言えます。例えば、ベートーヴェンの「大公」トリオの第3楽章アンダンテ、まるで神に感謝の祈りを捧げるかのような敬虔な音楽ですが、ここでの鳥羽泰子さんのベートーヴェンの心情に同化したかのような切々たる表現を聴いて、私は涙を抑えることができませんでした。

〈東京トリオ〉の演奏で際立っていたのは、彼らの演奏が、〈アンサンブル・ラロ〉にひけをとらないくらい、表現力が豊かで力強い演奏であったことです。当初、この人たちは、どうしてこのような日本人離れをした演奏ができるのだろうといぶかしく思っていたのですが、彼らの経歴を見て、なるほどと納得がきました。

彼らは、3人とも、日本の音楽大学ではなく、外国の音楽大学を出た人たちだったのです。ピアノの鳥羽泰子さんは、ニューヨーク

のジュリアード音楽院、ヴァイオリンの江口有香さんは、インディアナ州立大学音楽学部、チェロの江口心一さんは、フランスのパリ国立高等音楽院といった具合に。

これらの人たちは、外国へ行って、自己主張の強い人たちがひしめき合う環境に身を投じて、そこで揉まれることによって、日本人の弱点である自己主張の弱さ、個性の希薄さをかなりな程度、克服できたのではないかと推測できます。このことは、逆に言えば、外国へ行ったことがなく、穏やかな風土で、穏健で控え目な人たちに取り囲まれて育った人は、押しの強さに欠けるため、クラシック演奏家として立っていくにはかなりなハンディを背負わされているということになってしまいます。

〈アンサンブル・ラロ〉の演奏会が近づいています（10月5日）。

この演奏会で、特に注目していただきたいのは、演奏家一人一人の自発性、積極性、押しの強さです。これは、日本人演奏家からは、めったにお目にかかれないものです。とりわけ、クラシックの演奏家を目指そうという人たちにとっては、彼らの〈表現力豊かな力強い演奏〉からは、大いに学ぶべきところがあることでしょう。

（註） 許光俊『オレのクラシック』青弓社 34ページ

元同志社大学文学部講師（音楽学） 鷗川 真

西脇ロイヤルホテル



兵庫県西脇市西脇 991 番地 〒677-0015
TEL.0795-23-2000 FAX.0795-23-8604

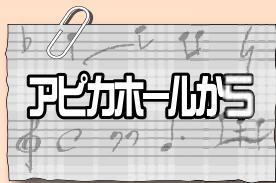
詳しくはオフィシャルホームページで >>> <http://www.nishiwaki-royalhotel.jp> 西脇ロイヤルホテル 検索

レストラン・ラフィネ

【朝食】 7:00~10:00
【ランチ】 11:30~14:30 (L.O.14:00)
【ディナー】 17:30~21:30 (L.O.21:00)
【喫茶】 10:00~17:30

和食処・織乃里

【昼】 11:30~15:00 (L.O.14:00)
【夜】 17:30~ (L.O.21:00)



8月3日(日)

ヴァイオリン ワークショップ

弦楽アンサンブル教室の一環として、昨年に引き続き、初心者を対象とした「ヴァイオリン・ワークショップ」を開催しました。

「弦楽アンサンブル教室」の藤井允人先生、西山枝里先生、そして西山先生とは同門で1年後輩の山崎江美子先生の指導を受け、小・中学生27名が初めてヴァイオリンの演奏にチャレンジしました。

ファーストステップ ヴァイオリンの音を聴く

弦楽アンサンブル教室生「アピカ・ジュニア・ストリングス」の演奏を聴く

セカンドステップ ヴァイオリンに触れる

楽器の持ち方を体験

ピッチカート（弦をつまんで音を出す）奏法で音を出す

サードステップ ヴァイオリンで演奏する

弓の持ち方を体験する

弓を使って合奏する

子どもたちは、最初は緊張していましたが、ステップの進行とともに雰囲気にも慣れ、最後は、「アピカ・ジュニア・ストリングス」と一緒にヴァイオリンを演奏し、初めての弦楽アンサンブルを楽しく体験しました。今後も、弦楽器体験を通じて、子ども達が音楽に親しみ、音楽への新たな魅力を発見する機会としてワークショップを継続していく予定です。



今までなかった。
DISTYLEのカジュアルオーダーメイド。
あなた様だけのキッチンと収納家具をお部屋を
デコレーション。

D-STYLE Kitchen&Furniture

株式会社 藤田幸三商店 神戸市東灘区向洋町6-9 4F
TEL:078-857-8424 FAX:078-857-8425

総合建設業 一級建築士事務所
国土交通大臣認定鋼構造物製作工場
あんしん住宅瑕疵保険届出事業者

ISO 9001
JQA-QM5608

WAIKI CONSTRUCTION CO.,LTD.

和以建設 株式会社

☎677-0018 西脇市富田町36
電話 0795-22-5651(代)

8月23日(土) 第18回 「リトルピアニストの大きなコンサート」

アピカホールのスタインウェイピアノを広く皆さんに弾いていただきたい。ホールのこの思いから始まったコンサートも、今回で第18回目の開催となりました。

平成8年のアピカホール開館以来、毎年開催し、アピカホールの歩みとともに、今では8月の夏休みのピアノコンサートとして定着しています。

“演奏家の卵”たちが、これからも音楽に親しみ、興味を持ち続けることを期待し、また、自分の演奏だけでなく、他の出演者の演奏を聴くマナーも身につけることを大きな狙いとして開催をしています。

今回は、午前の部34組36名、午後の部34組35名、全体では68組71名のリトルピアニストが出演し、終日、大勢の観客で賑わったホールは、温かい声援で一杯になりました。



午前の部



午後の部



8月31日(日)

「第43回 西脇市子ども芸術祭 子どもステージ」

(於 西脇市市民会館)

市内で唯一の児童合唱団「アピカ児童合唱団」が、去年に引き続き、西脇市子ども芸術祭の子どもステージに出演しました。

現在は、小学1年生から6年生までの9名が在籍し、プロ声楽家の指導とピアノ伴奏で、呼吸法や発声法を基礎から学びながら、歌う楽しさやみんなで歌う喜びを体験している「アピカ児童合唱団」です。

月3回の月曜日、夜のアピカホールに響く、透明で美しいハーモニーをそのままに、二度目となる市民会館の舞台上、元気に楽しく歌いました。



●開館30周年記念 第10回全国公募
「西脇市サムホール大賞展」
11月16日(日)~12月14日(日)

最終日午後3時まで
※サムホール大賞展 入場無料



「第10回西脇市サムホール大賞展」ポスター

1995年からビエンナーレ方式で開催されてきたサムホール大賞展も今年で第10回目を迎えます。全国各地から応募され、横尾忠則氏をはじめとする3人の審査員によって審査された大賞、準大賞、審査員賞、優秀賞、第10回記念賞、入選の計212点のサムホール(22.7×15.8cm)作品を展示いたします。

「赤松玉女—絵画の軌跡1984-2014」展
~11月3日(祝・月)

開館時間 午前10時~午後5時(入館4時30分まで)
入館料 大人310円(260円)高・大学生210円(160円)
小・中学生110円(80円)(20名以上団体割引料金)
※ココロンカード可
休館日 月曜日(祝日の場合は翌日)・祝日の翌日
11月5日から15日、12月16日から28日まで
展示替えの為休館・年末年始

●アトリエ

- 加東・西脇交流展
(前期)~10月13日(祝・月)
(後期)10月15日(水)~11月3日(祝・月)
- 第1回~第9回
サムホール大賞受賞作品展
11月16日(日)~12月14日(日)
※アトリエは入館無料

<http://www.nishiwaki-cs.or.jp/okanoyama-museum/>
ホームページにも掲載しておりますので是非ご覧ください。
ブログ「美術館日記」もご訪問ください。

西脇市民会館
TEL.0795-22-5715
休館日 火曜日(祝日の場合は翌日)

落語

「桂文珍独演会 JAPAN TOUR」

~一期一笑~

演目は
当日のお楽しみ!

とき 10月4日(土)
午後2時開演(午後1時30分開場)

ところ 市民会館 大ホール **全席指定**

出演者 桂文珍・若手落語家2名

入場料 一律 3,000円(当日500円増)

※未就学児の入場はご遠慮ください。



※ホームページにも掲載していますので是非ご覧ください。

<http://www.nishiwaki-cs.or.jp/shiminkaikan/> E-mail: shiminkaikan@ever.ocn.ne.jp

音楽の
話・輪・和・Wa

老いてからは
追想の歌

越川 正三

昔の童謡や唱歌
やラジオ歌謡が好
みます。流行歌で
も、古いのは穏やかでよ
う。

昔の歌に惹かれる理由を
説明しましょう。

童謡では、「赤とんぼ」
で三木露風の追想に誘われ
て自分の昔を追想し、甘酸
っぱい気分になります。童
謡は、生活歴のない幼児に
は「今の歌」ですが、老人
には「今」を忘れて「昔」
へ帰してくれる歌なのです。
追想を感じさせない「シ
ャボン玉」の歌詞の「生ま
れてすぐに壊れて消えた」
という箇所に「追想」の匂
いを感じて資料で調べまし

た。すると、消えたシャボ
ン玉は生まれて七日後に亡
くなった作詞者野口雨情の
長女であり、この童謡が鎮
魂の歌らしいとわかりまし
た。それから後は、「風風
吹くな シャボン玉飛ば
そ」という結びを聴くと、
雨情の悲哀が胸に迫ってき
ます。

私は歌詞がフィクション
である流行歌には馴染みに
くいのですが、「誰か故郷
を想わざる」や「リンゴ村
から」は、追想をそそる故
郷がテーマだから好きです。
ただ、軍配は前者にありま
す。夜に小雨のホームを泣
き泣き走る恋人との別離が
フィクションっぽいのに比
べて、姉が嫁いだ夜の少年
の涙には迫真性があるから
です。またフィクションで
も恋愛ばかりではなく、「紅

屋の娘」や「リンゴの唄」
のように可愛い乙女を主題
にした歌がもっとあれば世
の中が明るくなるでしょう。

私は学生および教員とし
て在籍していた母校の校歌
に、老後は退屈を感じるよ
うになりました。有名な詩
人が学舎とその近辺を数日
だけ視察してつくった歌詞
だからです。同じように学
園風景をうたっているも、
流行歌の「学生時代」が共
感をそそるのは、ベギー葉
山が美しい上級生への追想
を、やはり上級生の平岡精
二が作詞・作曲しているか
らです。

私はこのように易しい解
説書で作詞者の心境を調べ
ながら、昔の歌を聴いてい
ます。解説書は西脇市立図
書館でお探しください。

(西脇市文化連盟参与)

編集後記

地域で合唱団やオーケストラに入っているボナンタゴン読者の皆さまも多いと思います。楽器や合唱を始めた頃は、間違わないようにと必死ですね。ここアピカホールでも、児童合唱団と混声合唱団「混声CÓROアピカ」というグループが誕生して活動しています。子供のためのヴァイオリン体験も開催されていますので、ぜひチャレンジしてみてください。小さい時に本物の生の演奏に出会うことは素晴らしいことだと思います。耳を養うためにも、感性が豊かで優れた表現力の演奏をホールで聴いてみてくださいね(^^)アピカホールのしばざくらコンサートはオススメです。(Green)

アピカホール 催しガイド 10月～1月

休館日：毎週水曜日(祝日の場合翌日)

月/日(曜日)	催物内容	時間	入場料等	主催・問合せ	特集記事
10/4(土)	「桂文珍独演会 JAPAN TOUR」 ～一期一笑～	会場：西脇市民会館 14:00～	全席指定 一律 3,000円 (当日3,500円)	市民企画委員会「0」 西脇市民会館 ☎0795-22-5715	P11
10/5(日)	第126回 しばざくらコンサート 「アンサンブル・ラロ ピアノ四重奏団」	15:00～	一般 3,000円 高校生以下 1,500円	アピカホール ☎0795-23-9000	P6・7
10/18(土)	第127回 しばざくらコンサート 「びわ湖ホール声楽アンサンブル」	15:00～	一般 3,000円 高校生以下 1,500円	アピカホール ☎0795-23-9000	
10/19(日)	コーラスとマンドリンのジョイントコンサート	14:00～	無料	「ふろっくえこうず」 松浦久代 ☎0795-32-4191	
10/24(金)	みなと銀行みなと会 播丹支部秋季支部会	15:00～	関係者	みなと銀行三木支店 ☎0794-82-0980	
11/2(日)	「Nature Ensemble 弦楽コンサート Nature Strings party!!!」	14:00～	入場料1,500円 (学生1,000円)	代表 西山枝里 ☎0795-22-3141	
11/16(日)	第3回 ベルフェスタ in アピカ	13:30～	500円	ティンカーベル 代表 熊原幹恵 ☎0795-23-1671	
12/3(水)	幼稚園お出かけコンサート	1部 10:00～ 2部 11:00～	関係者	アピカホール ☎0795-23-9000	
12/12(金)	第128回 しばざくらコンサート 「平松加奈 con Armada」	19:00～	一般 3,000円 高校生以下 1,500円	アピカホール ☎0795-23-9000	P2・3
12/14(日)	くすのき リトルピアノコンサート	13:00～	関係者	楠 宮子 ☎0795-48-9332	
12/20(土)	第17回 「アピカ・アンサンブルコンサート」	13:30～ 開演予定	無料	アピカホール ☎0795-23-9000	P4・5
12/21(日)	第20回 クリスマスコンサート	12:30～	関係者	服部文字 ☎0790-42-1530	

- *主催者の都合により変更になる場合があります。内容についてのご質問は、各主催者までお問い合わせください。
- *アピカホール主催の有料コンサートにご来場のお客様に限り、アピカ地下駐車場の3時間無料駐車サービス券をお渡しします。

■編集：ポナンタゴン編集委員会
■発行：西脇市立音楽ホール「アピカホール」
ポナンタゴン：こんにちは
(エスペラント語)

〒677-0015 兵庫県西脇市西脇991
TEL(0795)23-9000 FAX(0795)23-9031
http://www.nishiwaki-cs.or.jp/apikahall/
E-mail: apikahall@ever.ocn.ne.jp

このガイドは2014年9月1日現在の資料を元に編集しており、内容は変更される場合があります。無断での転載を禁じます。